

〈ご報告とお願い〉

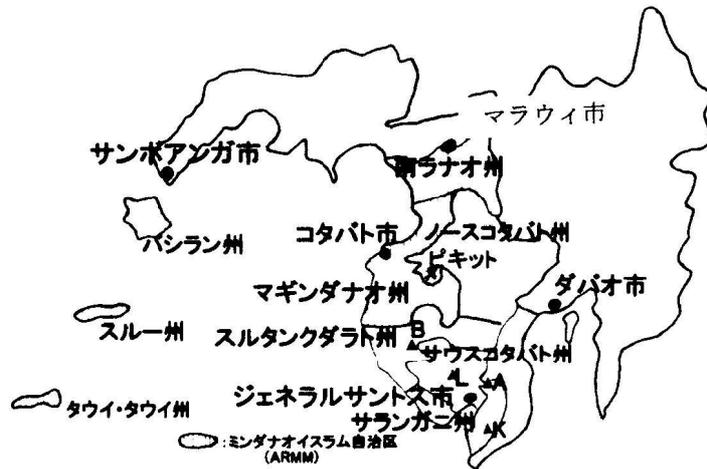
前号の書き損じ葉書ご寄附呼びかけにご協力
ありがとうございました。8名の方から合計
334枚お送りいただき切手と交換させていた
だきました。今後とも書き損じ葉書、使用済
切手・カードご寄附をよろしくお願ひします。



2003年4月20日発行

NPO法人ピラーンの医療と自立を支える会
227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11
TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933
E-mail: hands-ty@my.catv.ne.jp
<http://www.246.ne.jp/~hands-ty/hands.html>

— ミンダナオは今 —



*ミンダナオイスラム自治区 (ARMM) : 2001年8月の住民投票でバシラン州とマラウィ市が加わり、現在5州と1市から構成されている。
*地図中 A,B,L,K : 当会支援地域のアタモック、ブラクル、ラムブツ、キマ



講演のあと、参加者からの熱心な質問に答える高岩氏。「僕の示した資料を無条件に信じないで」の言葉が印象に残ったと感想を寄せてくれた会員の石井さん。独自のネットワークと足で集めた情報にもとづいて、メディアが伝えない真実に迫る高岩氏の姿勢には、参加者それぞれ深い感銘を受けたようです。(明治大学駿河台校舎にて)

〈知られていないミンダナオ難民の背景 —高岩仁氏講演会から〉

前号「お知らせ」欄でご案内のように、さる3月15日、映画「教えられなかった戦争シリーズ」制作者として知られる映像文化協会・高岩仁氏をお招きして、「第二の侵略 —開発・投資・派兵 —フィリピン」のビデオ上映及び講演会を開催しました。当会国際ボランティア貯金配分事業の報告会を兼ねて、(財)ボランティア貯金普及協会の助成を受けて実施した本講演会には、会員7名を含めて35名が参加しました。

ビデオは現地取材の案内役を務めたアガリン・サラ・長瀬さんが、故郷キアンバで起きた開発資本と軍による過去の自然と生活の破壊について語る場面から始まり、日本では伝えられていないゲリラ基地攻撃の真の目的に触れた各地の映像や証言が続きました。特にマギンダナオ州コタバト市(地図参照)周辺の石油埋蔵地で、自国政府による爆弾攻撃を受けて命からがら逃げてきたモロ民族難民の生々しい証言には大きな衝撃を覚えました。

貴重な MILF 議長へのインタビュー映像もありました。穏やかな口調ながら、政府が武力行使をやめないならモロ民族も戦い続けるという強い決意を聞きました。政府軍の攻撃の意図が、住民の証言や高岩氏告発のように、開発に邪魔な住民の排除であるならば、12月に出された ARMM(地図参照)への日本政府の援助増額約束は逆効果となる恐れがあります。難しいことですが、私たちも何が真実かを見極めながら活動する必要を痛感しました。

講演会の終わりに、現地 PPHC から支援要請のあった新たな避難民のためのカンパをお願いしました。PPHC は昨年度から新たに当会の現地カウンターパート(次ページ参照)となったモロ民族の医療支援組織です。

緊急医療支援要請 (PPHC 代表・ナブサさんのメール要約)

政府軍による2月10日のピキット(地図参照) MILF (モロイスラム解放戦線) 基地大規模攻撃により多くの避難民が発生し、避難生活が長引く中で子どもを中心に患者が増えている。政府保健省も対応しているが十分でない。PPHC としても巡回診療に協力したいが医薬品が足りない。支援をお願いしたい。

(現地メディア報道: この戦闘で MILF 側死者は約200人。一方、事前に政府軍によって避難させられた2万人を含めて、数日間の戦闘で避難したモロ民族の数は一時5万人に達した)